

平成26年度第5回花巻市子ども・子育て会議 会議録

日 時 平成27年3月17日（火）午前10時から正午まで
場 所 花巻保健センター 2階 集団指導室
出席委員 鎌倉公順委員、柳原賢一委員、坂本知弥委員、瀬川和子委員、
牛崎恵理子委員、菊池恵美子委員、大森正志委員、上田直輝委員、
佐々木成美委員、中村良則委員、鎌田文聰委員、伊藤隆規委員（12名）
欠席委員 伊東博文委員、細矢和男委員、岩館陽美委員、照井義彦委員、
高橋圭子委員、佐々木繁夫委員、赤坂礼子委員（7名）
報道関係者 1名
傍聴者 1名
市出席者 佐藤教育長、高橋教育部長
こども課 小田中課長、村田係長、晴山主査、伊藤主事
（オブザーバー 県南広域振興局花巻保健福祉環境センター 藤尾所長）

1 開会 こども課村田係長

2 挨拶

（中村会長）

年度末になり、子ども・子育て事業計画の具体的な案も決まった。忌憚のないご意見を伺いたい。

（佐藤教育長）

年度末のお忙しい中、早い時間からお集まりいただき感謝申し上げます。委員の皆様には何度も集まっていたいただき、たくさんのご意見を伺い、子ども・子育て事業計画もある程度固めることができました。先日、関係団体、保護者等、色々な立場の方からご意見を頂戴する場を設け、パブリックコメントも実施し、たくさんのご意見を伺った。いただいたご意見を1つ1つチェックしながら進めてきたつもりである。各委員からは、会議の都度、貴重なご意見をいただき感謝する。今日は、事業計画の最終案として、地域型保育事業の認可について、また特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について、また事業計画の名称について皆様にお諮りするので、よろしくお願ひしたい。

3 議事

（1）（仮称）花巻市子ども・子育て支援事業計画（案）について（晴山主査より説明）

（鎌倉委員）

今回の支援事業計画は、生まれてきた子ども達向けの計画だと思うが、子どもに恵まれない親もいる。そのような方達への支援については事業計画に盛り込まれないのか。あるいは、別の支援事業として計画しているのか。不妊治療について、市のサポート体制や相談できる環境づくり等についても、子ども・子育て支援事業計画に入れてもいいと思う。

(高橋教育部長)

健康づくり課と国保医療課で、不妊治療について医療費助成の拡大をしている。子ども・子育て事業計画を、子どもが生まれ育てるところからの計画にするのか、妊婦の支援まで含むのかは、考え方次第だと思う。妊婦の支援は医療の分野に入り、支援が重複する内容になる。来年度からは、母子手帳を貰っている妊婦さんの支援も保健センターを中心に始める。今回の計画は、子どもが生まれた後の支援計画である。

(鎌田委員)

少子化時代を迎え、花巻市で子ども達をどのように育てていくかを踏まえた計画を考えていけばいいのでは。

(鎌倉委員)

子どもが生まれる前の支援について意見を吸い上げてもらえるのか。市全体としての計画として盛り込んで、妊娠前の支援、妊娠後の支援、生まれてからの支援という感じで分けて、表記できないのか。

(佐藤教育長)

医療ビジョンの中で、不妊治療等の事業は拡充している。今回の事業計画は、子どもが生まれた後の支援計画である。子どもが生まれる前からの支援事業を入れた方がわかりやすい事業計画になるのであれば、計画に入れることは可能

(鎌倉委員)

不妊治療は子どもに恵まれない夫婦にしかわからない問題。今回の計画は、妊娠後に、市の支援サポート事業がわかる計画である。妊娠前の支援策も入れて、花巻市としての取り組みを知らせた方が、市民に対して親切だと思う。

(坂本委員)

広報には、不妊治療の助成について記載されている。不妊治療はデリケートな問題で、他人に知られたくない方もいるのではないかと。広報で知らせる機会を増やしていけばいいと思う。今回の計画は、子どもが生まれてからの支援計画にすべきである。生まれる前とは分けた方がいいと思う。どんどんさかのぼってしまうと、極端な話になれば、結婚相手の紹介まで事業に入れなければならなくなる。計画の線引きが大事

(鎌倉委員)

第3章以降については、異論はないが、第2章に不妊治療について、花巻市の現状と取り組みについて、記載して欲しいと思う。

(鎌田委員)

資料5の33ページ69番「幼児ことばの教室」事業について、平成26年度の実績見込みより、平成31年度の目標値が低くなっているが、理由はあるのか。

(晴山主査)

幼児ことばの教室事業は、85%の幼児が指導を終了していくことを目標値としている。平成26年度は、目標を上回る成果があった。

(鎌田委員)

他の事業は、平成26年度の実績見込みより、平成31年度の目標値が高くなっているので、計画を見る人が違和感を覚えるのではないのかと思って質問した。

(佐藤教育長)

数年の数値と比較して、調整していきたい。

(鎌倉委員)

ことばの教室事業で指導を受けられるのは、年長児からになっているが、言葉を話し始める年少あたりから調査して、該当する子どもがいれば、早めに指導を受けられる体制があった方がいいのではないか。花巻市として、周辺企業へ子育てサポートをお願いしていく取り組みがあってもいいと思う。

(小田中課長)

ことばの教室の対象児の調査は、年度末に年中児に行っている。口や舌の動き等体の機能が成長するのを待って、年長児から指導することになっている。あまり急いで指導していない。

(鎌田委員)

言葉を話す機能が発達してから指導することも大事だが、言葉の働きは、伝える、考える、話すということである。本来は、早目に指導することが大事。ことばの教室でできる事業と、発達支援という大きなバックグラウンドでできる事業に分けられる。ことばの教室事業は、伝達手段としての話し方、きつ音を直させることが目的だと思う。乳幼児期に色々な場所で指導を受けさせることが本来の姿だと思う。1つの事業で解決させることは難しい。

(村田係長)

16ページ77番目の事業にも記載しているが、事業所への子育て制度サポートの啓発はまだ不十分だと考えている。新しい計画の中でも、引き続き事業として行い、意識を深めて取り組んでいきたい。

(鎌倉委員)

企業が、子育て支援の情報を収集しなければならない状態なので、商工会議所やロータリークラブと連携してPR活動をすべきである。

その後、事業計画案として提出することとして承認された。

(2) 地域型保育事業の認可について（村田係長より説明）

（大森委員）

利用時間は明示されていないのか。

（村田係長）

7時30分～18時30分までは、通常の11時間保育の時間として、それを超える19時30分までの部分が延長保育時間として承っている。

その後、原案のとおり了承された。

(3) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について（村田係長より説明）

（中村会長）

過去の3年間の利用人数を勘案して利用定員について、意見を話せばいいのか。

（村田係長）

子ども・子育て支援事業計画で定めている計画値を上回るのは難しいという意見が出ると考えている。計画との関連性という観点から意見を伺いたい。

（鎌倉委員）

利用定員より、過去3年間の利用人数が多い保育施設がある。そういう保育施設には、どのように対応しているのか。

（村田係長）

保育園の定員は設定しているが、現状は待機児童が発生している状況である。国の取扱規定で、面積や、保育士の人数等保育要件をクリアできれば、定員を上回っても受け入れていいことになっている。花巻市でもそれに倣って対応している。実績では、定員より多く受け入れていることになっている。

新しい計画の中では、平成27、28年度は定員より利用者が多い状態。29年度以降については、定員数の増加、施設の増加などについても計画を立てていきたい。

（中村会長）

利用人数よりも、利用定員が上回るのが好ましい。今後、利用定員数が上回るのを期待したい。

(鎌倉委員)

施設の中では保育士の数は足りても、課外活動を行うときに、保育士の数が少なく、園児に目が届かなかったために事故が起こった。0～2歳までの子ども達は、3歳以上より手厚く保育しなければならなかった。それに対して対応できているのか。保育士全体の人数だけではなく、0～2歳児保育への保育士の配分等についても注意していく必要がある。

(小田中課長)

保育士の人数は基準があり、各保育施設は基準に合わせて運営していると認識している。今後、産後から2歳までの子どもの利用が増えると思われる。保育士の確保については、工夫していかなければならないと捉えている。

現在は、認可保育園には定員以上に受け入れてもらっている。国は、認可定員と利用定員を同数にすることを目指している。花巻市では、平成29年までに5%ずつ定員を上げていく目標を掲げている。

(中村会長)

みなし確認について教えて欲しい。

(村田係長)

現在運営している保育園、幼稚園は4月1日付で自動的に新しい制度に移行するが、移行する施設をみなし確認の施設という。3月31日までに、新制度に乗らないという意思表示のあった施設は、新制度に移行しない。市内の私立幼稚園は新制度に移行しない旨の届出を貰っている。

(中村会長)

利用定員については、適宜増えていくと理解した。

(4) 花巻市子ども・子育て支援事業計画 計画名称の検討について(晴山主査より説明)

(鎌倉委員)

名称の最後に「プラン」を入れなければならないか。

(晴山主査)

たたき台には「プラン」が付いているが、こだわらずにみんなに親しまれる名称にしたい。

(坂本委員)

「21」は、21世紀の意味なので外してもいいのではないか。「新イーハトーブ花巻子育て支援プラン」ではどうか。

(牛崎委員)

地域全体で応援しているプランという感じの名称がいいのではないか。「イーハトーブ花巻子育て応援プラン」もいいのでは。

(鎌倉委員)

「プラン」という名称は外したいと思う。「プラン」は計画案という意味に感じる。「プロジェクト」を使うと壮大な計画に見え、行動が示される感じに見えていいと思う。

(中村会長)

市民全体が対象で、活動するという目線に立った名称が必要。「プラン」を付けていいと思う。

(菊池委員)

平成27年～31年度の子育て支援事業計画の名称なので「プラン」でいいと思う。

(上田委員)

「プロジェクト」という言葉は好きだが「子ども・子育て・支援」という文言が入っていた方が理解されやすい。堅いイメージになるかもしれないが「花巻子ども・子育て支援プラン」がわかりやすいのではないか。

(柳原委員)

名称の表現を大事にしたい。E案の「すくすくはなまきぼっこプラン」がいいと思う。どこの自治体にもないような名称を付けて、注目してもらい浸透させる方法もある。

(中村会長)

3案に絞られたと思う。1つ目は「イーハトーブ花巻子育て応援プラン」、2つ目は「花巻子育て支援プラン」、3つ目は「すくすくはなまきぼっこプラン」である。

(鎌田委員)

「ぼっこ」という呼び名は、温かい感じがするが、花巻ではよく使われるのか。

(鎌倉委員)

若い世代はわからないと思う。

(鎌田委員)

若い人達にも理解される名称にしなければならないが「すくすくはなまきぼっこプラン」

にして欲しいと思う。

(中村会長)

多数決で決めたいと思う。それぞれ適案だと思う案に挙手をお願いしたい。

多数決の結果、「イーハトーブ花卷子育て応援プラン」に決定した。

(村田係長)

委員の皆様には、昨年7月から今日まで、5回の会議で子ども・子育て支援計画についてご審議いただき感謝する。今年度の会議は本日で最後となる。今後の会議の持ち方についてご意見を頂戴したい。

通常だと、年度末に実施状況を説明し、ご意見をいただき次年度へつないでいく方法であるが、即効性を持たせ次年度予算に反映させることも重要だと考えている。秋頃に評価を行う会議を設けて、そこで出された意見を検討し、翌年度予算の編成に向けて、さらに検討していく方向で進めていきたいと思っている。

年度末には、当該年度の実施状況を報告する会議を開催し、単年度中に複数回の会議を設けたいと考えている。

(中村会長)

秋頃の会議の内容について再度説明願いたい。

(村田係長)

秋頃の会議は、計画の実施状況について、年度の中盤での報告の場にしたい。そこで、評価、検討し翌年度予算の組み立てにつなげていくようにしたい。年度末の会議も含めて、複数回検証する機会が必要と考えた。もし、複数回実施でもいいというご意見であれば内部で検討していきたい。

(中村会長)

秋頃の会議は、中間報告的な会議で、年度中に2回会議を設けてみたいということのようだ。

(鎌倉委員)

任期が来年7月で終了する。その後の委員の取り扱いは、どのように考えているのか。

(村田係長)

任期は来年7月までの1年間をお願いしている。来年度の1回目の会議が秋頃になるので、新たな委員が評価することになる。年2回程度の会議が持てれば、よりよい評価、修正が図られるのではないかと考えている。

(佐藤教育長)

長時間にわたり、ご議論いただき感謝申し上げます。また、昨年7月から5回の会議を通じて、ご意見、ご提言をいただき感謝申し上げます。市では、様々な計画を出しているが、今回の計画についても、様々な機会を捉え発信していきたい。社会全体のシステムとして、事業主への理解も深めていきたい。子ども達の実態、社会の変化で、事業計画は工夫、改善しなければならない部分が増えてくる。4月からしっかりした形で実施していきたい。5年間の計画・期間なので、実効性が問われる。1年毎にチェックしながら柔軟に対応していきたい。

4 その他
特になし

5 閉会
以上で平成26年度第5回花巻市子ども・子育て会議の一切を終了する。